

被災地真夏日 支援に汗

屋根の修繕急ピッチ

初夏の太陽が照り付け、額に汗がにじんだ。大阪府北部地震から1週間となった25日、被災地は真夏日となった。厳しい暑さの中、ボランティアが住宅の屋根に上り、壊れた瓦の撤去や修繕作業に精を出した。

大阪府茨木市の災害ボランティアセンターには各地から、首にタオルを巻

いた数十人のボランティアが集まった。石川県野々市の会社役員田中昭一さ



住宅の屋根をブルーシートで覆う「災害復旧職人派遣協会」の職人＝25日午後、大阪府高槻市

ん(73)は20日から、車内で寝泊まりして茨木市内の住宅を回り、屋根をブルーシートで覆う作業に取り組む。

「体力があるうちに誰かの力になりたい」と、これまで東日本大震災や熊本地震の被災地などでもボランティアに従事した。「屋根の照り返しもあって、すごく暑かった。しんどいが必要はまだあるので頑張る」と日焼けした顔で話した。

高槻市の無職安井初江さん(75)宅では山梨や静岡から訪れた屋根職人が、汗を拭いながら修繕作業に当たった。

安井さん宅は地震で屋根の一部が破損、居間の天井が雨漏りする状態で、机の

上にバケツを置いて生活していた。修繕が終わると「暑い中、作業をしてくれて本当に助かった」と顔をほころばせた。

同規模地震の可能性低下か

関連地震は警戒

大阪管区気象台は、最大震度6弱を観測した18日午前7時58分の大阪府北部地震から1週間となった25

日、記者会見を開き、「同程度の地震が発生する可能性はかなり低くなった」と明らかにした。一方、平常時より地震活動が活発な状況は続いているとして、引き続き警戒を呼び掛けた。

気象台によると、18日朝から25日午後1時まで、大阪府北部地震と関連するとみられる震度1以上の地震は40回観測された(速報

値)。内訳は震度4が1回、震度3が4回、震度2が11回、震度1が24回だった。地震の発生回数は減少してきているものの、今後も現状程度の地震活動は当分続くと思われる。

揺れの強かった地域では、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性が高まっているため、今後の地震や降雨に注意する必要があるとしている。